

DX推進と一貫生産体制による生産ラインの合理化 先端技術によりめっき加工の3Kのイメージを刷新

スマートフォンや自動車に使われる半導体などの電子部品のめっき加工や切削、研磨などを主力事業として手掛ける同社は、特に表面処理技術に強みを持ち、ニッケル、錫、金、銀、パラジウムと幅広い種類のめっき処理が可能であり、その高い技術力によって製品の小型化や高機能化にも貢献してきた。薬品等危険物を取扱うことから3K職場のイメージの強いめっき加工の職場において工程の自動化を図り、工場から排出される廃水のリサイクルに関する特許技術を開発するなど業界イメージの改善にも取り組んでいる。

所在地 福岡県直方市大字下境字黍田427-8
電話/FAX 0949-23-0331/0949-28-2941
URL <https://aska-plating.co.jp>
代表者 代表取締役社長 阪文孝

設立 1971年
資本金 3,200万円
従業員数 123人



一貫工程による生産プロセスの合理化と自動化ラインによる安全性確保を実現

同社では、一般的に分業体制で行われる半導体ウェハーへのめっき加工と切削や研磨工程等によるウェハーの加工までを自社内で提供可能な体制を構築している。また、生産ラインの自動化により省人化を図りながら品質向上・納期短縮・コストダウンを実現している。めっき工程は一般的に、薬品等危険物を取扱うことから3K職場のイメージが強いが、生産ラインの自動化は作業者の安全確保にも寄与しており、従業員にとって働きやすい職場環境実現と付加価値向上の両立を果たしている。



同社のめっき生産工程

DXの推進および現場主導による改善提案活動

IT化にも積極的な同社は近年、4名から成る専門部署を新設。製造の生産性向上、品質向上を推進。作業者の腕にICタグラベルを付与することで作業状況の見える化も実現した。このようにして得られたデータを分析しながら稼働率向上に取り組んでいる。さらには、部署単位で月に1件改善提案を出し、優秀な提案を表彰するなど現場の意見を積極的に取り入れることで、業務効率化と従業員のモチベーション向上を実現している。また、従業員による自発的な改善提案が促される組織づくりに努めている。



(左) 腕に付与されたICタグ (右) バーコード管理

社外連携や人事戦略を通じた技術革新

半導体の大手納入先が同社の技術をテコにバッテリーのシェア拡大に成功した際は、その貢献度が高く評価され、「技術開発貢献賞優秀賞」を受賞した。技術高度化に向けて、九州工業大学や北九州高専と共同研究を実施したり、北九州高専と年12回勉強会の実施を行うなど社員の知識習得も図っているほか、大手メーカー出身者を中途採用し、生産技術や生産管理の高度化にも取り組んでいる。車載部品の分野では、世界中から高い評価を集めており、国内のみならずドイツや韓国など海外メーカー向け試作品も製作する。



大手メーカー出身者なども積極採用